

よえもん

—yoemon—
2014年10 第18号

今月のことば



シリーズ
よえもん

ご家族への手紙



母思いのよえもんは、自分が小川村へ帰ることを決心しました。福家老は前から、よえもんさんの学問や人柄を気に入っていたのですが、仕方なくお殿さまにお願いする手紙を出すように、よえもんさんに言いました。そこで、よえもんさんは一字一字願いをこめて書きました。

わたしは、前から病気にかかり、つとめにくくて、困っています。また、ふるさとの母が一人でくらししていますので、心配でなりません。親孝行して、そのうち、またご奉公したいと思っています。決して、他の藩に仕えたいするようなことではありませんので、どうか、殿さまへ間違いのないように、申し上げてくださいますようお願いいたします。

3月5日 中江よえもん
佃ござえもんさま

そして、殿さまのお許しを、首を長くして待ちましたが、何の返事もなく、2年以上の月日が流れていくのでした。この「辞職嘆願書」は記念館で展示しています。



万物一原の
理りなるゆえに、
本来吾と人との
差別なし。

書・洲田瑞穂
出典・鑑草

「すべてのものは一つの源から発する」という道理があるので、本来、自分と他人の区別はない」という意味の「鑑草」からの一節です。このあとに藤樹は続けず、ねたんで人を憎み傷つけるのは、自分の身を思うようだが、結局は自分を傷つける。一方、ねたまずに人に恵みを与えることは、慧かみえるが、結局は自分を大切にするにふさわしい。これこそ藤樹の愛敬の思想の核になるものなのです。



第26回小企画展

中江藤樹と三男常省の真跡

中江藤樹の真跡(自筆)は、1698年の江戸の大火によりその大半が焼失してしまい、貴重な資料となっています。今企画展では、藤樹と常省の真跡をできる限り多数展示しました。是非、見に来て下さい!

【開催期間】

2014.10.1 ▶ 2015.3.31

